

業績ハイライト

2020年3月期の決算

当行単体の業績につきまして、経常収益は、役員取引等収益が前期比6億30百万円増加したことや、国債等債券売却益11億41百万円の増加があったものの、株式売却益66億44百万円の減少を主因に、前期比54億95百万円減少し334億76百万円となりました。

経常費用につきましては、国債等債券売却損が前期比29億87百万円減少したことや、貸倒引当金繰入額が26億58百万円減少したこと等から、前期比64億78百万円減少し292億43百万円となりました。

この結果、経常利益は前期比9億83百万円増加し、42億33百万円となりました。

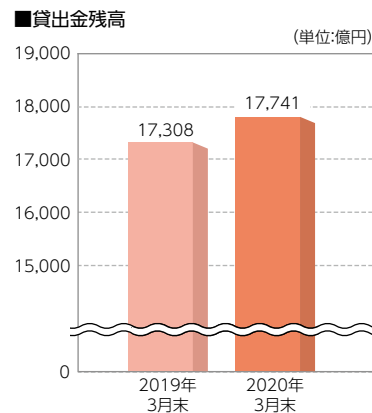
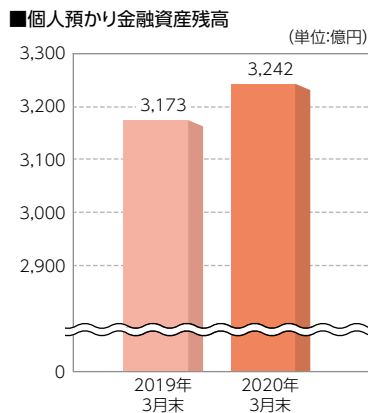
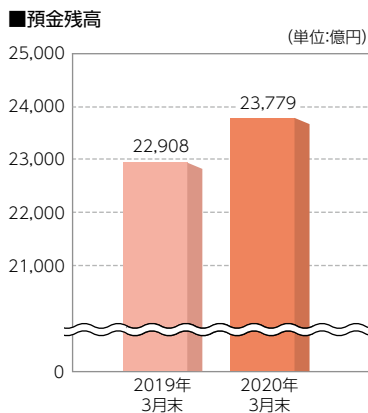
また、当期純利益につきましては、前期に特別利益として計上した固定資産処分益7億54百万円の反動減等もあり、前期比3億19百万円減少し23億11百万円となりました。

なお、連結経営成績につきましては、連結経常収益で前期比52億64百万円減少の414億円、連結経常利益で前期比11億83百万円増加の46億2百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で前期比1億95百万円減少の24億41百万円となりました。

預金・貸出金等の状況

2020年3月末の総預金残高は、個人預金が482億円、一般法人預金は249億円伸びたことで、前期末比870億円増加し2兆3,779億円となりました。

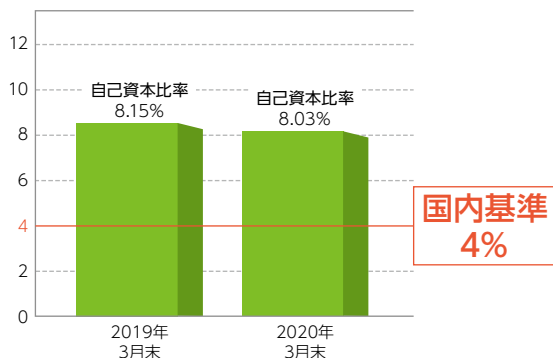
総貸出金残高に関しましても、東京地区への貸出が増加したことで、前期末比433億円増加し1兆7,741億円となりました。



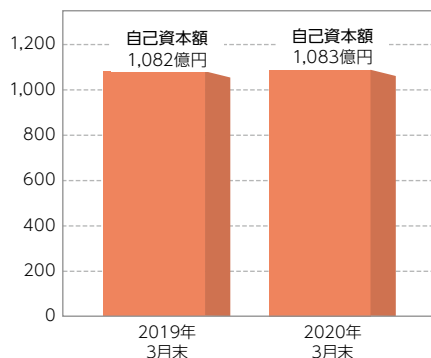
自己資本比率

自己資本比率(国内基準)は、前期末と比べて利益の積み上げ等により自己資本の増加があったものの、有価証券の増加を主因にリスクアセットの増加があったことにより、前期末比0.12%ポイント減少し8.03%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



不良債権の状況

債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)の比率は、2019年3月末の2.15%が2020年3月末には2.06%となりました。

なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、2020年3月末で1.84%(2019年3月末では1.93%)となっております。

■2020年3月末の不良債権の状況

